

胡振華主編『中亞東干学研究』

犬 塚 優 司

胡振華主編《中亞東干学研究》(ISBN978-7-81108-722-2)は、中国の中央民族大学出版社から、2009年10月、出版されたもので、主編者胡振華教授は、中央民族大学少数民族言語文学学院東干学研究所所長である。

本書に取り上げられている東干族は、19世紀後半に中国西北地区の回族蜂起が失敗した後、難を逃れ三群に分かれて中央アジアに移住した回族農民の後裔である。十月革命後、1924年にソ連が民族の認定を行った際、その名称は「東干(Дунган)」と定められた。ただし、東干族の人々は自ら「回回」あるいは「中原人」と称している。現在中央アジアカザフスタン共和国に5万人、キルギス共和国に5万人以上、ウズベキスタン共和国に4、5千人が居住しており、合わせて11万人以上になる。彼らは、今なお百年以上前の中国語陝西方言と甘肅方言、中国西北地域に流伝する民間文学と民間芸術及び伝統習俗を留めている。

1950年代から形成された「東干学(Дунгановедение)」は、東干族の言語、文学、芸術、歴史、宗教、民俗など各方面で研究を進める学問分野である。旧ソ連、ドイツ、オーストラリア、日本及び独立後の中央アジア各国には専門に東干学を研究する研究者がいる。キルギス共和国国家アカデミーには東干研究機構があり、現在「東干学—中国学研究センター」と呼ばれている。日本においては、橋本萬太郎氏が早くから着目し、研究を進めていた。

中国における東干学研究は、これよりもやや遅れて始まったが、これまでに東干学に関する専門書、論文が出版発表され、また漢字に転写していくつかの東干族の文学作品が出版されている。これは、また中国国民と中央アジアの関係国国民との間の伝統的な友好交流を推し進めることともなった。

胡振華教授は、1950年代初め、当時の中央民族学院が言語学研究グループのために招いたソ連の言語学研究者である、科学アカデミー会員S. P. セルジュチェンコ(C・П・Сердюченко C・П・謝爾久琴珂)教授の直接の指導と援助の下、東干族の言語、文化、歴史と民俗の学習と研究を始めた。中国において、非常に早い時期に東干族及び東干語に触れ、研究を開始している。

胡振華教授は、東干族及び東干語について、次のように述べている。「長年の学習と調査研究を通して、理論的に言って、私は東干族、東干語及び東干学の学術的位置づけについて次のような結論を得た。東干は中央アジアの回族であり、東干語は中国語陝西方言と甘肅方言の中国国外中央アジアの変異体であり、東干学は回族学を構成する一部であり、その一分野である。東干語は中国語と平行する別の民族言語としてはまだ形成されていない。この種の観点は外国の研究者がそれが既に独立した民族言語に発展していると認識している観点とは異なっている。(前言)」一定の文化を共有する集団が、ある民族に含まれるのか、それとも独立した一つの民族であるのか、一定の領域で話されている言語が、ある言語の方言なのか、それとも一つの独立した言語なのかを認定することは、大変困難である。東干族の研究者は、東干族は、一つの民族であり、東干語は、中国語とは異なる一つの言語であると考えている。一方、中国の研究者は、胡振華教授の立場をとっているようである。

本書は、近年の主に中国における東干学研究をまとめたものである。本書は、四つの部分から構成されている。

第一部「私の東干学へのこだわり」は、胡振華教授が1955年以来東干学を研究し、東干学教育研究活動に従事してきた状況をまとめたものである。胡振華教授がいかに東干学の研究を進めてきたか、中央アジア諸国の人々といかに友好交流をすすめてきたかを知ることができる。

第二部「現代東干族の知名人」は、現代東干族の著名人を紹介するものであり、著者はキルギス共和国の二名の研究者である。すなわち、キルギス共和国国家アカデミー東干学—中国学研究センター主任、アカデミー会員モハメド・イマゾフ（Мухаммед Имазов 穆哈買徳・依瑪佐夫）教授とキルギス共和国国立ビシュケク人文大学学長顧問ラシド・ユソボフ（Рашид Юсупов 拉什徳・優蘇波夫）教授である。これはロシア語で書かれたものを、中国科学院外事局の黄賽氏が中国語に翻訳し、胡振華教授がそれについて校訂と修正を行ったものである。東干族の文化的な発展を支えてきた、多くの人物が紹介されている。この中には、キルギス代表として、1994年の広島アジア大会の柔道95kg級に参加し、5位となった阿不都扎里・優努索夫選手も含まれている。

第三部「東干学研究」は中国人東干学研究者と中国以外の研究者が著した論文と関係する参考資料であり、その中には2003年中国の首都北京で開催された東干バイリンガル国際研究討論会で発表された個別論文なども含まれている。また、東干族、東干言語文学と密接な関係にある中国回族と中国回族言語文学を紹介する関係論文も、ここに載せられている。中国における東干学の研究状況を知る上で、非常に重要な論文が多く含まれている。

第四部は、「中国語普通話—東干語常用詞」である。ここでは、品詞ごとに分類し、さらに意味により分類した中国語と東干語の対照語彙表である。中国語漢字、ピンイン、東

干語（東干文字表記）と並べてある。名詞が 1,543 組（東干語の語が空欄であるものが 43 項目ある、合計 1,586 項目）、動詞 720 組、形容詞 446 組、数詞 65 組、量詞 94 組、代詞 46 組、副詞 187 組、前置詞 44 組、接続詞 42 組、助詞 8 組、間投詞 15 組、オノマトペ 7 組、合計 3,217 組が収録されている。また、付録として挨拶ことばが 39 組収められている。中国語と東干語の語彙の比較を行う上で、非常に有用な資料となるであろう。さらに、東干における中国語教育においても利用価値が高いものとなることであろう。

このように、本書は、中国における東干学の発展を理解する上で、非常に価値の高い著作である。それと同時にその出版そのものが社会に対して有益な効果をもたらしている。第一に、中国の読者及び東干学に興味がある人々に中央アジアの東干族と東干学を紹介するものである。第二に、中国の改革開放以来の東干学研究方面の成果を総括し、中国の東干学を研究する専門の研究者のために協力交流する場を構築し、中国の東干学の研究レベルを高めるものとなった。第三に、中国以外の研究者に中国の東干学研究の状況を紹介し、中国国内国外の研究者間の協力交流を進めるものである。第四に、中国国民と中央アジア各国の国民の伝統的友情を増進する働きを持っている。

なお、2008 年は、東干学の著名な研究者ムハマド・スシャンロ（Мухаммед Сушанло 穆哈買德・蘇尚洛）没後 10 周年、胡振華教授の教育研究活動従事 55 年にあたり、本書は、それを記念したものである。また同時に、2009 年の中華人民共和国建国 60 周年、中央民族大学少数民族言語文学学院東干学研究所設立 10 周年、胡振華教授革命活動参加 60 周年を記念して出版されたものでもある。

最後に、本書の目次を次に示す。

前言	胡振华	(1)
第一部分 我的东干学情结	胡振华	1
第一次听讲和讲述东干文课		3
在中国与东干亲人们见面		9
第一次应邀去中亚与东干亲人交流		12
在中国热情接待穆哈买德·苏尚洛通讯院士		14
与东干亲人们的交往越来越密切		16
在中国培养研究东干学的人才		19
中央民族大学建立东干学研究所		21
第二部分 当代东干族知名人物		
穆哈买德·依玛佐夫、拉什德·优苏波夫 编写		

	黄赛 译 胡振华 校	25
雅斯尔·十娃子——东干族书面文学的奠基人		27
吉尔吉斯共和国的东干学大师穆哈买德·苏尚洛		30
东干族小说家阿里·阿尔不都		34
马斯利亚诺夫的杂技家族		39
东干语言学家穆哈买德·胡赛佐维奇·依玛佐夫		41
贾玛勒·卡里莫夫——第一位东干族数学教授		43
穆哈买德·乌玛尔·潘沙耶夫——第一位东干族画家		45
国家剧院总经理叶辛·伊斯玛依劳夫		50
功勋教练亚历山大·胡赛音诺维奇·沃依诺夫		52
功勋医生伊斯哈尔·丰洛尔教授		54
东干族铸造专家拉什德·巴基劳夫		57
东干族宗教活动家卢格玛尔·哈吉·古阿胡诺夫		59
优秀的农场主席穆哈买德·萨里哈尔		62
语言学家胡赛音·布呷佐夫教授		64
东干族医生世家		66
当选过社会主义劳动英雄的东干人		69
热心公益的实业家纳赛尔·伊斯玛佐维奇·穆萨耶夫		72
奥玛尔·王舒的善行		74
荣获“苏联人民演员”称号的艺术家胡赛音·穆赫塔劳夫		76
海塔洪·塔什劳夫和他的接班人		79
吉尔吉斯共和国最佳柔道运动员		84
第三部分 东干学研究		87
东干、东干语、东干学研究	胡振华	89
在祖先的土地上	[吉尔吉斯共和国] 穆哈买德·苏尚洛	98
中亚东干族学者和作家诗人	胡振华	113
穆哈买德·苏尚洛与东干学	胡振华	118
我和东干族著名诗人雅斯尔·十娃子	胡振华	134
我和东干族历史学家依里雅斯·优苏波夫	胡振华	151
东干族学习和使用语言文字的问题	胡振华	154
中亚东干族文学	胡振华	161
中亚东干族的名字	胡振华	171
中亚东干族与中国回族文化之比较研究	丁宏	183
中国少数民族双语教学研究会第二届国际学术研讨会		
——中亚东干双语国际研讨会在京举行	海峰	187

中亚东干语的语言学价值	海峰	192
试析中亚东干语中的借词	海峰	201
中亚东干学人新著简介	海峰	214
中亚东干人与吉尔吉斯人的双语教学研究	苗东霞	219
日本著名语言学家桥本万太郎对东干语研究情况		
	[日本] 犬冢优司	219
永远留在心中的美好回忆 —— 纪念东干族作家阿尔里·阿尔不都		
	殷松龄	238
永久的纪念	郭兆林	242
亲情和友情的纪念 —— 《中亚东干人的历史与文化》译者前记		
	郝苏民	246
东干文化与东干作家文学漫谈 —— 《苏联东干族小说散文选》译后记		
	杨峰	251
《东干族形成发展史》后记	王国杰	268
正确评价白彦虎	王国杰	270
东干族英雄马三成与苏俄三年内战	王国杰	291
《东干文化研究》序	胡振华	301
《中亚东干语言研究》序	胡振华	304
《中亚回族诗歌小说选译》前言	林涛	307
喜看2003年我国东干语研究的新收获	胡振华	312
山水相隔情不断 —— 记我所熟悉的几位从事东干学研究的学者		
	赵晓佳	317
中亚东干人知名人士访华团参观中央民族大学	胡振华	323
中亚东干文学研究参考文献目录	马幼平	325
中国回族	胡振华、赵宏庆	341
中国回族和汉语	胡振华	350
中国回族文学	胡振华	363
中国回族文献《回回馆译语》	胡振华	371
中国新疆回族话概况	马德元	381
中国回族、回族话及其与土耳其语相同的词语		
	[土耳其] 殷珍珠 (Inci Ince ERDOGDU)	391
对国外回族研究的思考	胡振华	395
第四部分 汉语普通话东干语常用词		
	胡振华、海峰、苗东霞、马幼平、穆哈买德·依玛佐夫	403
附录		

一、东干人——十月革命前的资料			
	[俄罗斯] 尼·维·鲍戈亚夫连斯基 穆淑惠 摘抄		515
二、前苏联吉尔吉斯斯坦邀请胡振华教授的档案材料			
	吉尔吉斯苏维埃社会主义共和国共产党中央委员会		
	赵晓佳、海峰 译		522
三、祝贺胡振华教授从教55周年			
	[吉尔吉斯] 穆哈买德·依玛佐夫 赵晓佳 译		527
四、我的中国回族老师——祝贺胡振华教授从教55周年			
	[土耳其] 殷珍珠		529
五、情系民族教育事业 矢志不渝55周年			
	——祝贺穆斯林学者胡振华教授从教55周年	苗东霞	531
六、为民族教育事业献身 为中外文化交流架桥			
	——祝贺回族学者胡振华教授从教55周年	赵晓佳	536
后记		胡振华	551